

年間の主な訪問先

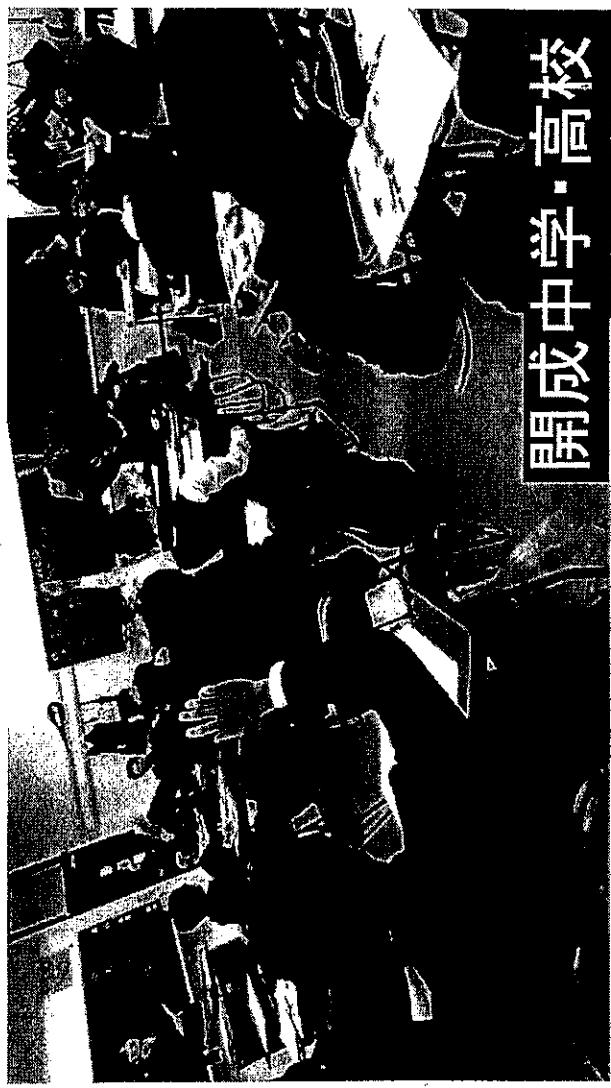
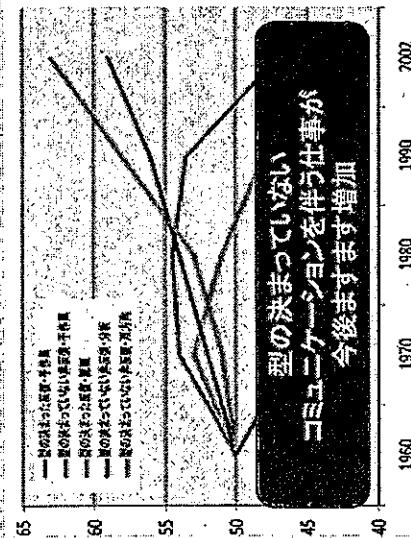
私たちには福井の子どもたちを、どのような大人に育てたいのか?  
～首都圏における先進校の取り組みから～

暢久違渡  
1

認定こども園・小・中学校訪問、各種研究会や中教講などへの参加を合わせると、  
べ300回以上訪問

福井の子どもを、どのような大人に育てると良いのか。

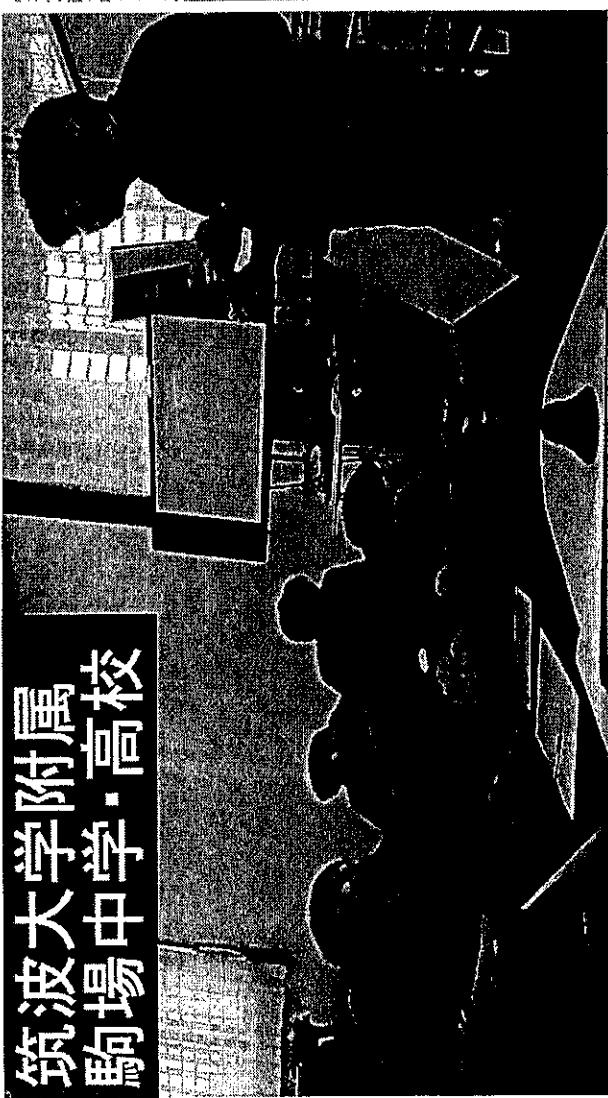
今、社会で求められている人財は、正解のない問題に自ら向き出しあげる力が求められる。



## 開成中學·高校



国際基督教大学附属高校



筑波大学附属高校  
駒場場中学校

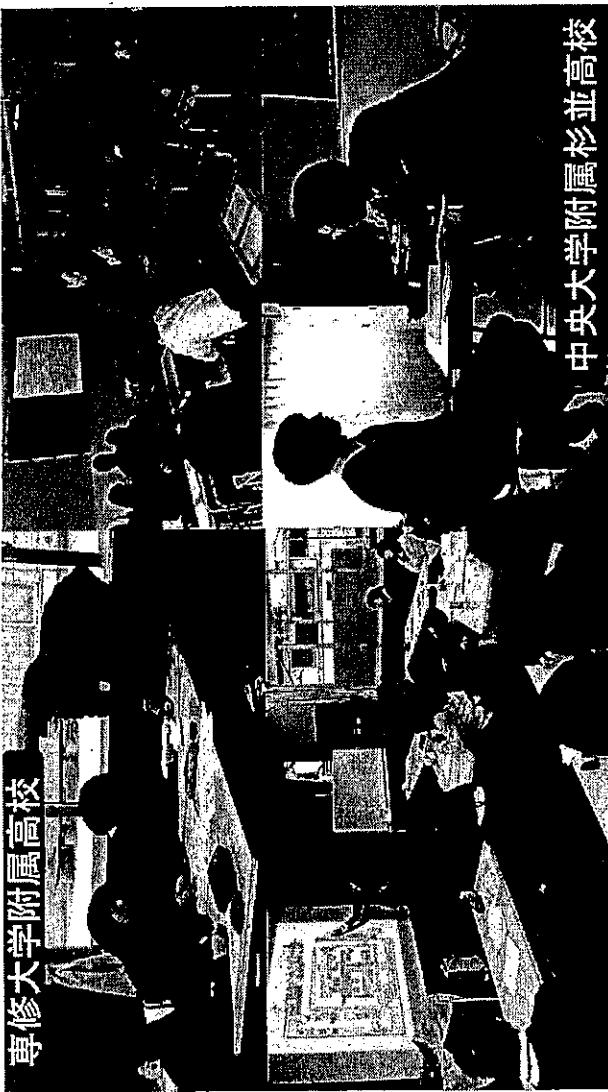


かえつ有明中学・高校



聖光学院中学・高校

## 専修大学附属高校



中央大学附属杉並高校



授業の目標が明確  
～この単元で、この1時間の授業でどのような力を培いたいのか～

## 首都圏私学における授業の特徴

★授業の目標が明確  
★どんな力を培うための授業かが不明確

★数時間ずつごとに単元を完結する。  
教材を次々にこなすイメージ。

★1ヶ月くらいの期間を使って、

テーマ性のある単元を開発する。

★教材は教科書以外の自主教材を用いることが多い。

★教え込むのではなく、自由に豊かに考  
えさせる活動が多く取り入れられている。  
★評定はそれほど厳密ではない。

★知識・理解を測るペーパーテストの結果に  
による1点刻みの評価評定が中心。



「鬼の街」



国際基督教大学附属高校

1ヶ月間をかけて、戦争時ににおける  
人間の尊厳について考える授業。  
漫画・ビデオ・文学テクスト等を用  
いる。

聖光学院中学・高校

## そもそも、教育の目的は？

### ・教育基本法第1条(教育の目的)

教育は、人格の完成をめざし、平和的な国家及び社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたづね、勤労と責任を重んじ、自主的・精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

より良い社会を形成するためには、各教科の学習を通じて、  
人格の完成(物の見方・考え方を育むこと)が重要。

そのためにも、いわゆる「アクティブラーニング」が必然となる。

## ディープラーニングとしてのアクティブラーニング

### 生徒の活動 ≠ アクティブラーニング

生徒が活動を通して深く学ぶことが大切

### アクティブラーニング ディープラーニング



(京都大学 高等教育研究開発推進センター・准教授 清上慎一)

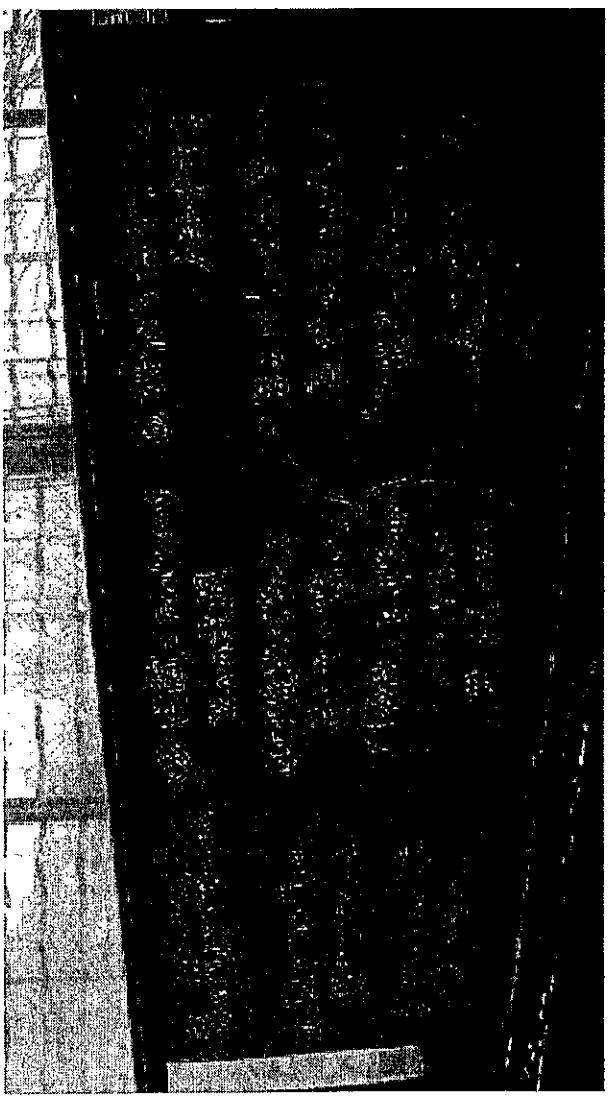
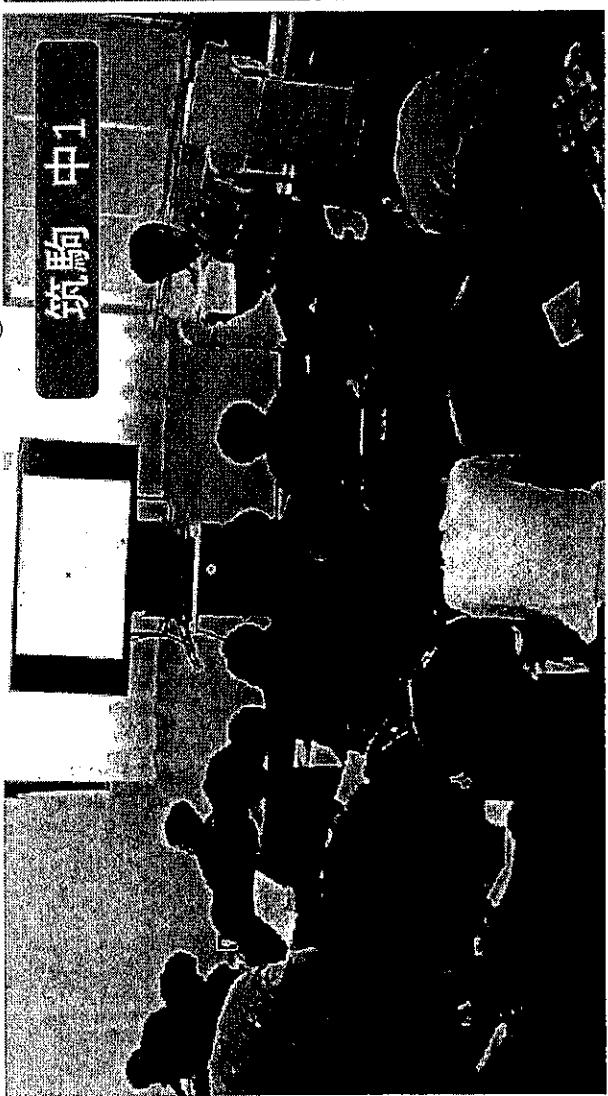
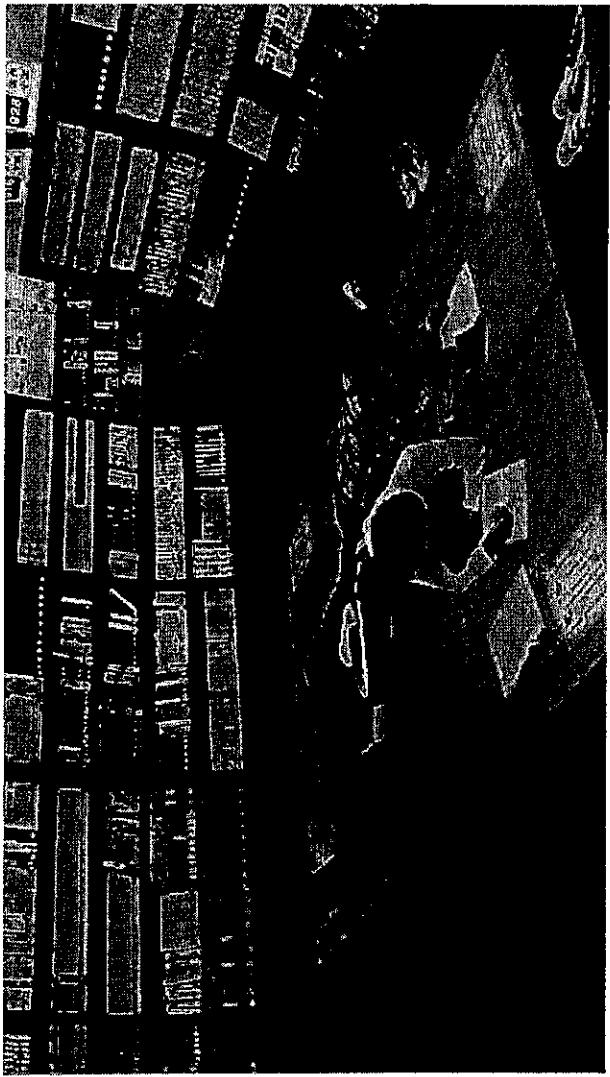
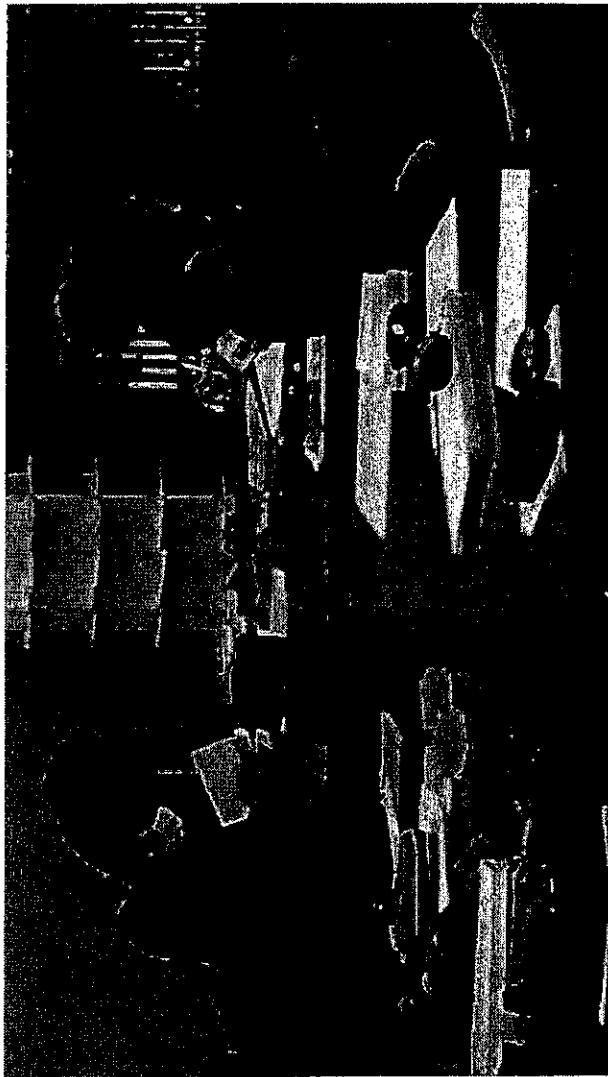
## アクティブラーニングとは？

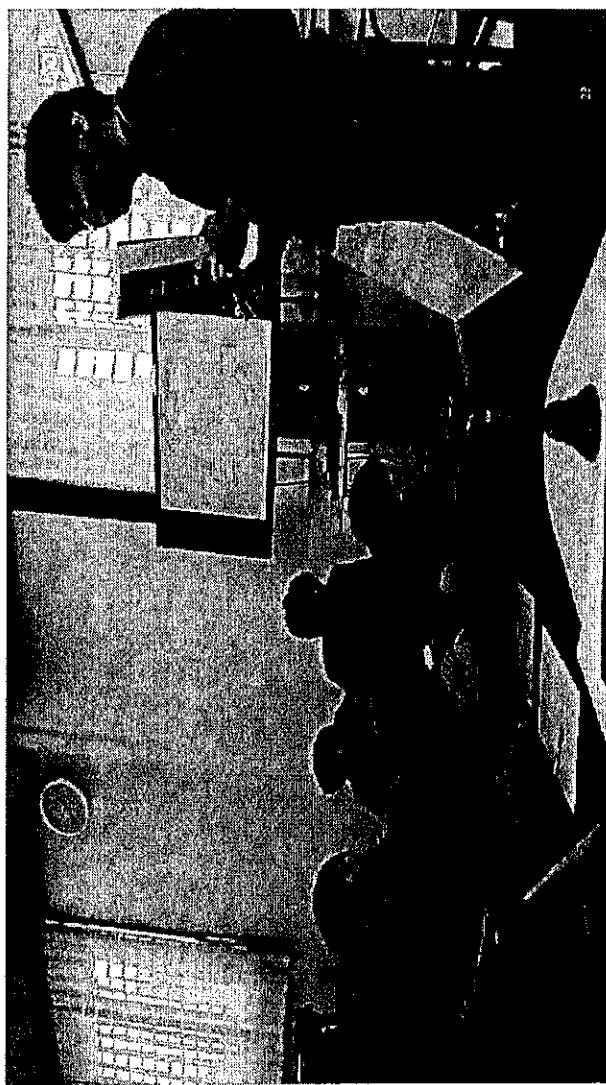
### 「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び」

## ディープ・アクティブラーニングの実際 ・筑波大学附属駒場中学・高校 中学1年生 国語

ある事柄を知つてゐるのみならず、  
実社会や実生活の中で知識・技能を活用しながら、  
自ら課題を発見し、主体的・協働的に探究し、  
成果等を表現していく学び

(2015/1/29 中教審教育課程特別部会配付資料より)





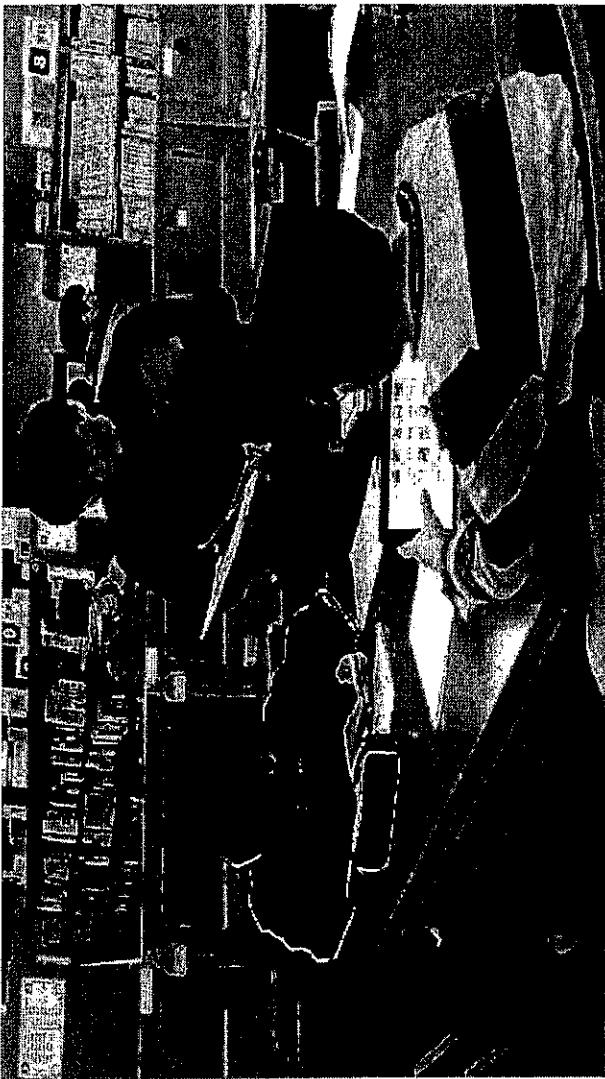
鐵櫃大樞 (三)

卷	年	月	日	事
一	癸卯	正月	廿四	立春
二	癸卯	正月	廿五	己未
三	癸卯	正月	廿六	庚申
四	癸卯	正月	廿七	辛酉
五	癸卯	正月	廿八	壬戌
六	癸卯	正月	廿九	癸亥
七	癸卯	正月	三十	甲子
八	癸卯	二月	初一	乙丑
九	癸卯	二月	初二	丙寅
十	癸卯	二月	初三	丁卯
十一	癸卯	二月	初四	戊辰
十二	癸卯	二月	初五	己巳
十三	癸卯	二月	初六	庚午
十四	癸卯	二月	初七	辛未
十五	癸卯	二月	初八	壬申
十六	癸卯	二月	初九	癸酉
十七	癸卯	二月	初十	甲戌
十八	癸卯	二月	十一	乙亥
十九	癸卯	二月	十二	丙子
二十	癸卯	二月	十三	丁丑
二十一	癸卯	二月	十四	戊寅
二十二	癸卯	二月	十五	己卯
二十三	癸卯	二月	十六	庚辰
二十四	癸卯	二月	十七	辛巳
二十五	癸卯	二月	十八	壬午
二十六	癸卯	二月	十九	癸未
二十七	癸卯	二月	二十	甲申
二十八	癸卯	二月	廿一	乙酉
二十九	癸卯	二月	廿二	丙戌
三十	癸卯	二月	廿三	丁亥
三十一	癸卯	二月	廿四	戊子
三十二	癸卯	二月	廿五	己丑
三十三	癸卯	二月	廿六	庚寅
三十四	癸卯	二月	廿七	辛卯
三十五	癸卯	二月	廿八	壬辰
三十六	癸卯	二月	廿九	癸巳
三十七	癸卯	二月	三十	甲午
三十八	癸卯	三月	初一	乙未
三十九	癸卯	三月	初二	丙申
四十	癸卯	三月	初三	丁酉
四十一	癸卯	三月	初四	戊戌
四十二	癸卯	三月	初五	己亥
四十三	癸卯	三月	初六	庚子
四十四	癸卯	三月	初七	辛丑
四十五	癸卯	三月	初八	壬寅
四十六	癸卯	三月	初九	癸卯
四十七	癸卯	三月	初十	甲辰
四十八	癸卯	三月	十一	乙巳
四十九	癸卯	三月	十二	丙午
五十	癸卯	三月	十三	丁未
五十一	癸卯	三月	十四	戊申
五十二	癸卯	三月	十五	己酉
五十三	癸卯	三月	十六	庚戌
五十四	癸卯	三月	十七	辛亥
五十五	癸卯	三月	十八	壬子
五十六	癸卯	三月	十九	癸丑
五十七	癸卯	三月	二十	甲寅
五十八	癸卯	三月	廿一	乙卯
五十九	癸卯	三月	廿二	丙辰
六十	癸卯	三月	廿三	丁巳
六十一	癸卯	三月	廿四	戊午
六十二	癸卯	三月	廿五	己未
六十三	癸卯	三月	廿六	庚申
六十四	癸卯	三月	廿七	辛酉
六十五	癸卯	三月	廿八	壬戌
六十六	癸卯	三月	廿九	癸亥
六十七	癸卯	三月	三十	甲子
六十八	癸卯	四月	初一	乙丑
六十九	癸卯	四月	初二	丙寅
七十	癸卯	四月	初三	丁卯
七十一	癸卯	四月	初四	戊辰
七十二	癸卯	四月	初五	己巳
七十三	癸卯	四月	初六	庚午
七十四	癸卯	四月	初七	辛未
七十五	癸卯	四月	初八	壬申
七十六	癸卯	四月	初九	癸酉
七十七	癸卯	四月	初十	甲戌
七十八	癸卯	四月	十一	乙亥
七十九	癸卯	四月	十二	丙子
八十	癸卯	四月	十三	丁丑
八十一	癸卯	四月	十四	戊寅
八十二	癸卯	四月	十五	己卯
八十三	癸卯	四月	十六	庚辰
八十四	癸卯	四月	十七	辛巳
八十五	癸卯	四月	十八	壬午
八十六	癸卯	四月	十九	癸未
八十七	癸卯	四月	二十	甲申
八十八	癸卯	四月	廿一	乙酉
八十九	癸卯	四月	廿二	丙戌
九十	癸卯	四月	廿三	丁亥
九十一	癸卯	四月	廿四	戊子
九十二	癸卯	四月	廿五	己丑
九十三	癸卯	四月	廿六	庚寅
九十四	癸卯	四月	廿七	辛卯
九十五	癸卯	四月	廿八	壬辰
九十六	癸卯	四月	廿九	癸巳
九十七	癸卯	四月	三十	甲午
九十八	癸卯	五月	初一	乙未
九十九	癸卯	五月	初二	丙申
一百	癸卯	五月	初三	丁酉
一百零一	癸卯	五月	初四	戊戌
一百零二	癸卯	五月	初五	己亥
一百零三	癸卯	五月	初六	庚子
一百零四	癸卯	五月	初七	辛丑
一百零五	癸卯	五月	初八	壬寅
一百零六	癸卯	五月	初九	癸卯
一百零七	癸卯	五月	初十	甲辰
一百零八	癸卯	五月	十一	乙巳
一百零九	癸卯	五月	十二	丙午
一百一十	癸卯	五月	十三	丁未
一百一十一	癸卯	五月	十四	戊申
一百一十二	癸卯	五月	十五	己酉
一百一十三	癸卯	五月	十六	庚戌
一百一十四	癸卯	五月	十七	辛亥
一百一十五	癸卯	五月	十八	壬子
一百一十六	癸卯	五月	十九	癸丑
一百一十七	癸卯	五月	二十	甲寅
一百一十八	癸卯	五月	廿一	乙卯
一百一十九	癸卯	五月	廿二	丙辰
一百二十	癸卯	五月	廿三	丁巳
一百二十一	癸卯	五月	廿四	戊午
一百二十二	癸卯	五月	廿五	己未
一百二十三	癸卯	五月	廿六	庚申
一百二十四	癸卯	五月	廿七	辛酉
一百二十五	癸卯	五月	廿八	壬戌
一百二十六	癸卯	五月	廿九	癸亥
一百二十七	癸卯	五月	三十	甲子
一百二十八	癸卯	六月	初一	乙丑
一百二十九	癸卯	六月	初二	丙寅
一百三十	癸卯	六月	初三	丁卯
一百三十一	癸卯	六月	初四	戊辰
一百三十二	癸卯	六月	初五	己巳
一百三十三	癸卯	六月	初六	庚午
一百三十四	癸卯	六月	初七	辛未
一百三十五	癸卯	六月	初八	壬申
一百三十六	癸卯	六月	初九	癸酉
一百三十七	癸卯	六月	初十	甲戌
一百三十八	癸卯	六月	十一	乙亥
一百三十九	癸卯	六月	十二	丙子
一百四十	癸卯	六月	十三	丁丑
一百四十一	癸卯	六月	十四	戊寅
一百四十二	癸卯	六月	十五	己卯
一百四十三	癸卯	六月	十六	庚辰
一百四十四	癸卯	六月	十七	辛巳
一百四十五	癸卯	六月	十八	壬午
一百四十六	癸卯	六月	十九	癸未
一百四十七	癸卯	六月	二十	甲申
一百四十八	癸卯	六月	廿一	乙酉
一百四十九	癸卯	六月	廿二	丙戌
一百五十	癸卯	六月	廿三	丁亥
一百五十一	癸卯	六月	廿四	戊子
一百五十二	癸卯	六月	廿五	己丑
一百五十三	癸卯	六月	廿六	庚寅
一百五十四	癸卯	六月	廿七	辛卯
一百五十五	癸卯	六月	廿八	壬辰
一百五十六	癸卯	六月	廿九	癸巳
一百五十七	癸卯	六月	三十	甲午
一百五十八	癸卯	七月	初一	乙未
一百五十九	癸卯	七月	初二	丙申
一百六十	癸卯	七月	初三	丁酉
一百六十一	癸卯	七月	初四	戊戌
一百六十二	癸卯	七月	初五	己亥
一百六十三	癸卯	七月	初六	庚子
一百六十四	癸卯	七月	初七	辛丑
一百六十五	癸卯	七月	初八	壬寅
一百六十六	癸卯	七月	初九	癸卯
一百六十七	癸卯	七月	初十	甲辰
一百六十八	癸卯	七月	十一	乙巳
一百六十九	癸卯	七月	十二	丙午
一百七十	癸卯	七月	十三	丁未
一百七十一	癸卯	七月	十四	戊申
一百七十二	癸卯	七月	十五	己酉
一百七十三	癸卯	七月	十六	庚戌
一百七十四	癸卯	七月	十七	辛亥
一百七十五	癸卯	七月	十八	壬子
一百七十六	癸卯	七月	十九	癸丑
一百七十七	癸卯	七月	二十	甲寅
一百七十八	癸卯	七月	廿一	乙卯
一百七十九	癸卯	七月	廿二	丙辰
一百八十	癸卯	七月	廿三	丁巳
一百八十一	癸卯	七月	廿四	戊午
一百八十二	癸卯	七月	廿五	己未
一百八十三	癸卯	七月	廿六	庚申
一百八十四	癸卯	七月	廿七	辛酉
一百八十五	癸卯	七月	廿八	壬戌
一百八十六	癸卯	七月	廿九	癸亥
一百八十七	癸卯	七月	三十	甲子
一百八十八	癸卯	八月	初一	乙丑
一百八十九	癸卯	八月	初二	丙寅
一百九十	癸卯	八月	初三	丁卯
一百九十一	癸卯	八月	初四	戊辰
一百九十二	癸卯	八月	初五	己巳
一百九十三	癸卯	八月	初六	庚午
一百九十四	癸卯	八月	初七	辛未
一百九十五	癸卯	八月	初八	壬申
一百九十六	癸卯	八月	初九	癸酉
一百九十七	癸卯	八月	初十	甲戌
一百九十八	癸卯	八月	十一	乙亥
一百九十九	癸卯	八月	十二	丙子
二百	癸卯	八月	十三	丁丑
二百零一	癸卯	八月	十四	戊寅
二百零二	癸卯	八月	十五	己卯
二百零三	癸卯	八月	十六	庚辰
二百零四	癸卯	八月	十七	辛巳
二百零五	癸卯	八月	十八	壬午
二百零六	癸卯	八月	十九	癸未
二百零七	癸卯	八月	二十	甲申
二百零八	癸卯	八月	廿一	乙酉
二百零九	癸卯	八月	廿二	丙戌
二百一十	癸卯	八月	廿三	丁亥
二百一十一	癸卯	八月	廿四	戊子
二百一十二	癸卯	八月	廿五	己丑
二百一十三	癸卯	八月	廿六	庚寅
二百一十四	癸卯	八月	廿七	辛卯
二百一十五	癸卯	八月	廿八	壬辰
二百一十六	癸卯	八月	廿九	癸巳
二百一十七	癸卯	八月	三十	甲午
二百一十八	癸卯	九月	初一	乙未
二百一十九	癸卯	九月	初二	丙申
二百二十	癸卯	九月	初三	丁酉
二百二十一	癸卯	九月	初四	戊戌
二百二十二	癸卯	九月	初五	己亥
二百二十三	癸卯	九月	初六	庚子
二百二十四	癸卯	九月	初七	辛丑
二百二十五	癸卯	九月	初八	壬寅
二百二十六	癸卯	九月	初九	癸卯
二百二十七	癸卯	九月	初十	甲辰
二百二十八	癸卯	九月	十一	乙巳
二百二十九	癸卯	九月	十二	丙午
二百三十	癸卯	九月	十三	丁未
二百三十一	癸卯	九月	十四	戊申
二百三十二	癸卯	九月	十五	己酉
二百三十三	癸卯	九月	十六	庚戌
二百三十四	癸卯	九月	十七	辛亥
二百三十五	癸卯	九月	十八	壬子
二百三十六	癸卯	九月	十九	癸丑
二百三十七	癸卯	九月	二十	甲寅
二百三十八	癸卯	九月	廿一	乙卯
二百三十九	癸卯	九月	廿二	丙辰
二百四十	癸卯	九月	廿三	丁巳
二百四十一	癸卯	九月	廿四	戊午
二百四十二	癸卯	九月	廿五	己未
二百四十三	癸卯	九月	廿六	庚申
二百四十四	癸卯	九月	廿七	辛酉
二百四十五	癸卯	九月	廿八	壬戌
二百四十六	癸卯	九月	廿九	癸亥
二百四十七	癸卯	九月	三十	甲子
二百四十八	癸卯	十月	初一	乙丑
二百四十九	癸卯	十月	初二	丙寅
二百五十	癸卯	十月	初三	丁卯
二百五十一	癸卯	十月	初四	戊辰
二百五十二	癸卯	十月	初五	己巳
二百五十三	癸卯	十月	初六	庚午
二百五十四	癸卯	十月	初七	辛未
二百五十五	癸卯	十月	初八	壬申
二百五十六	癸卯	十月	初九	癸酉
二百五十七	癸卯	十月	初十	甲戌
二百五十八	癸卯	十月	十一	乙亥
二百五十九	癸卯	十月	十二	丙子
二百六十	癸卯	十月	十三	丁丑
二百六十一	癸卯	十月	十四	戊寅
二百六十二	癸卯	十月	十五	己卯
二百六十三	癸卯	十月	十六	庚辰
二百六十四	癸卯	十月	十七	辛巳
二百六十五	癸卯	十月	十八	壬午
二百六十六	癸卯	十月	十九	癸未
二百六十七	癸卯	十月	二十	甲申
二百六十八	癸卯	十月	廿一	乙酉
二百六十九	癸卯	十月	廿二	丙戌
二百七十	癸卯	十月	廿三	丁亥
二百七十一	癸卯	十月	廿四	戊子
二百七十二	癸卯	十月	廿五	己丑
二百七十三	癸卯	十月	廿六	庚寅
二百七十四	癸卯	十月	廿七	辛卯
二百七十五	癸卯	十月	廿八	壬辰
二百七十六	癸卯	十月	廿九	癸巳
二百七十七	癸卯	十月	三十	甲午
二百七十八	癸卯	十一月	初一	乙未
二百七十九	癸卯	十一月	初二	丙申
二百八十	癸卯	十一月	初三	丁酉
二百八十一	癸卯	十一月	初四	戊戌
二百八十二	癸卯	十一月	初五	己亥
二百八十三	癸卯	十一月	初六	庚子
二百八十四	癸卯	十一月	初七	辛丑
二百八十五	癸卯	十一月	初八	壬寅
二百八十六	癸卯	十一月	初九	癸卯
二百八十七	癸卯	十一月	初十	甲辰
二百八十八	癸卯	十一月	十一	乙巳
二百八十九	癸卯	十一月	十二	丙午
二百九十	癸卯	十一月	十三	丁未
二百九十一	癸卯	十一月	十四	戊申
二百九十二	癸卯	十一月	十五	己酉
二百九十三	癸卯	十一月	十六	庚戌
二百九十四	癸卯	十一月	十七	辛亥
二百九十五	癸卯	十一月	十八	壬子
二百九十六	癸卯	十一月	十九	癸丑
二百九十七	癸卯	十一月	二十	甲寅
二百九十八	癸卯	十一月	廿一	乙卯
二百九十九	癸卯	十一月	廿二	丙辰
三百	癸卯	十一月	廿三	丁巳
三百零一	癸卯	十一月	廿四	戊午
三百零二	癸卯	十一月	廿五	己未
三百零三	癸卯	十一月	廿六	庚申
三百零四	癸卯	十一月	廿七	辛酉
三百零五	癸卯	十一月	廿八	壬戌
三百零六	癸卯	十一月	廿九	癸亥
三百零七	癸卯	十一月	三十	甲子
三百零八	癸卯	十二月	初一	乙丑
三百零九	癸卯	十二月	初二	丙寅
三百十	癸卯	十二月	初三	丁卯
三百十一	癸卯	十二月	初四	戊辰
三百十二	癸卯	十二月	初五	己巳</

卷之三

中華人民共和國農業部  
農業部農業科學研究所  
農業部農業科學研究所





生徒がアクティブラナーに！

Active learner

活発な  
盛んな  
現役の  
機能している  
能動的な

Passive learner

受身の、  
受動的でない、  
活動的でない、  
言いなりの、  
従順な

# ディープ・アクティブラーニングの実際

・開成中学・高校 国語  
中学校3年生

作品をよく読むためには  
どのように頭を働かせれば良いか?



## 日本語の世界①——「○然」篇(II)

□=漢字 ○=かな

【意味】特別の目的もなく事をなすさま。はつきりした意識をもたず、いい加減に行うさま。

【例文】ターゲットで、□然と単語を覚えていても意味がない。

二

【意味】思い切って物事を行うさま。

【例文】好きな人に□然と告白する。

三

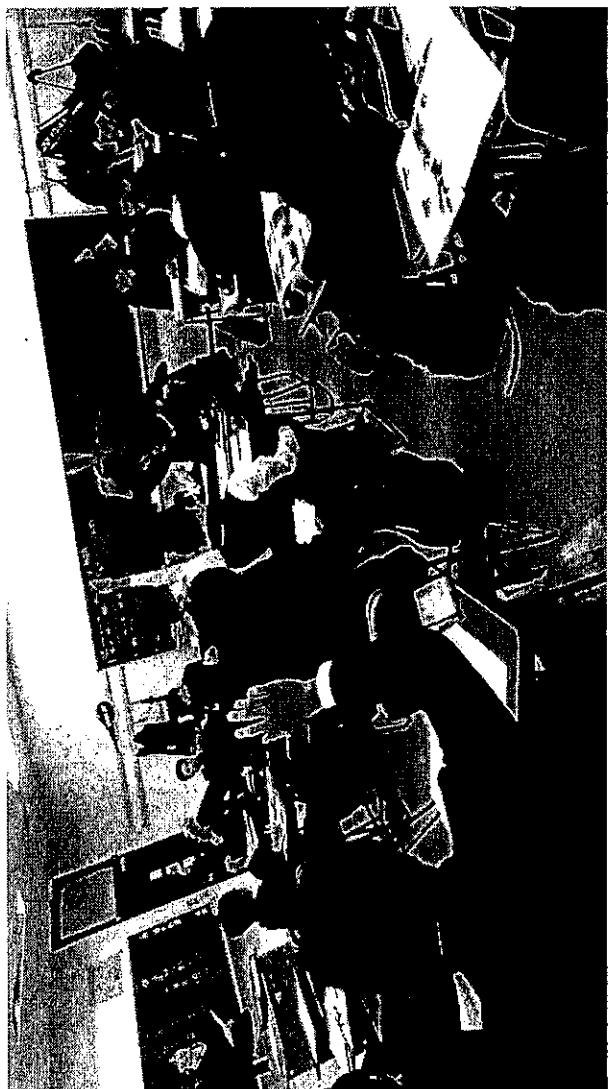
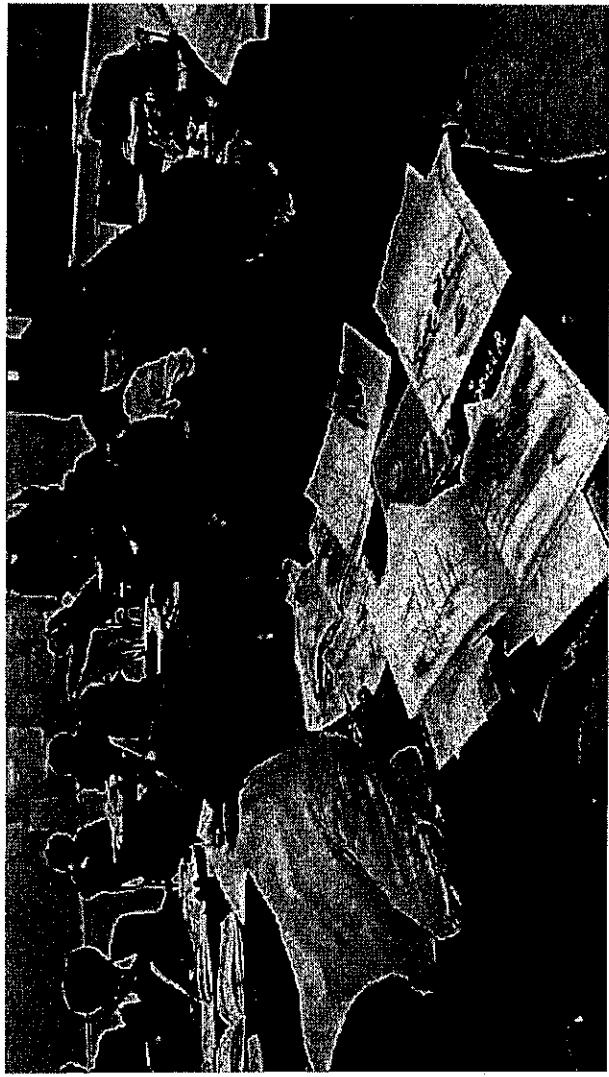
【意味】物事が一瞬にして現れたり消えたりするさま。

【例文】□然と姿を消す。

四

【意味】いくつかのものがとけ合って区別できないさま。

【例文】映像と音楽が□然と一体になって織る雰囲気。



25

2014年3月  
舞祭を覗く

カツラギ・ハサン  
『死生』

四幕喜劇 [川] 氏名 [ ]

文六組アタマガヒラ (頭の筋はなりてらばゆの米葉葉)

◎筋が筋子大ヤ人ハ小めらひる人筋筋子大ヤ人筋筋子大ヤ人筋 (狂歌)

◎筋せりり筋筋子大ヤ人筋"リラ筋筋子大ヤ人筋" (狂歌) (大歌)

◎火火火成 (狂歌)"火火火"筋筋子大ヤ人筋 (狂歌) (大歌)

◎JG各各の筋筋筋"筋筋筋" (狂歌) (大歌)

◎大筋や大筋"大筋筋子大ヤ人筋"大筋りきき筋筋子大ヤ人筋 (狂歌) (大歌) (大歌)

◎JG筋"筋筋筋" (狂歌) (大歌)

◎JG筋"筋筋筋" (狂歌) (大歌) (大歌)

◎JG筋"筋筋筋" (狂歌) (大歌) (大歌)

◎JG筋"筋筋筋" (狂歌) (大歌)

◎JG筋"筋筋筋" (狂歌) (大歌) (中歌) (大歌)

◎JG筋"筋筋筋" (狂歌) (大歌) (中歌) (大歌)

◎JG筋"筋筋筋" (狂歌) (大歌)

◎JG筋"筋筋筋" (狂歌) (大歌) (中歌) (大歌)

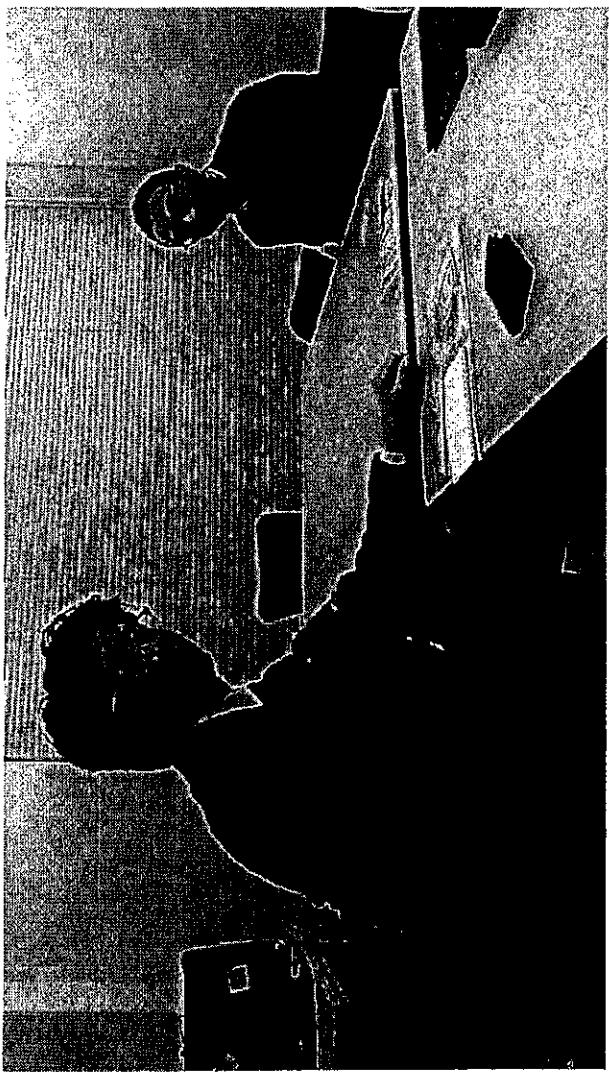
◎JG筋"筋筋筋" (狂歌) (大歌)

◎JG筋"筋筋筋" (狂歌) (大歌) (中歌) (大歌)

◎JG筋"筋筋筋" (狂歌) (大歌) (中歌) (大歌)

◎JG筋"筋筋筋" (狂歌) (大歌) (中歌) (大歌)

◎JG筋"筋筋筋" (狂歌) (大歌)

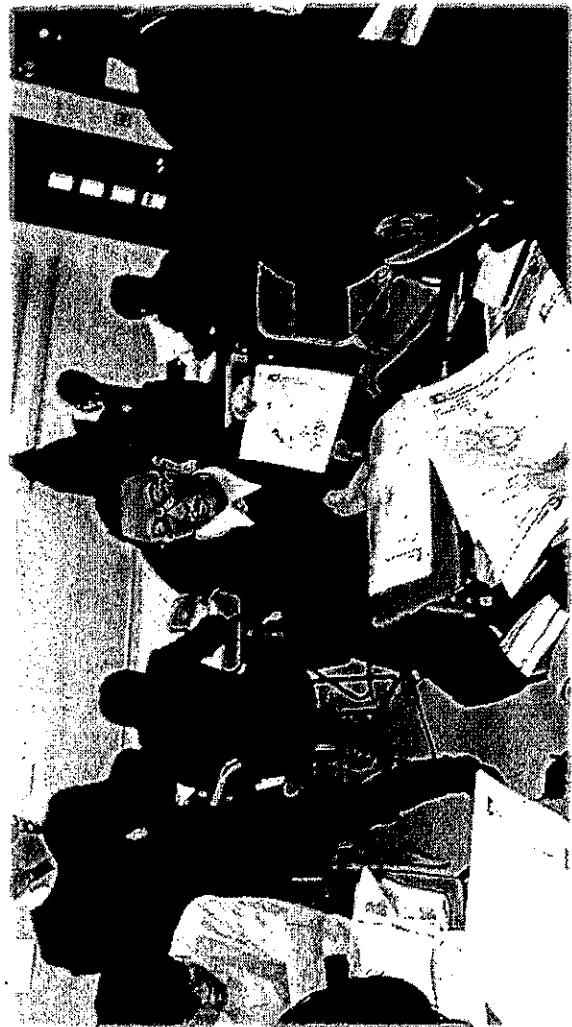
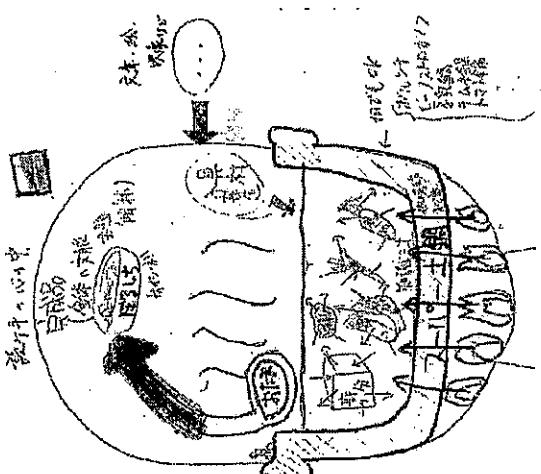
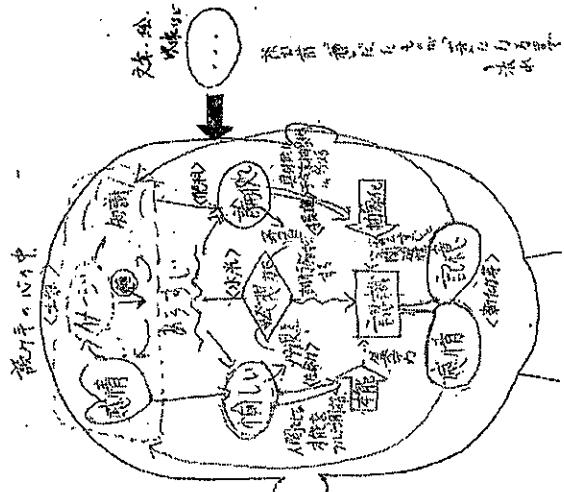


教師もアクティブラーナーに！

Passive learner  
受身の、  
受動的ない、  
活動的でないの、  
言いなりの、  
従順な

Active learner  
活発な  
盛んな  
現役の  
機能している  
能動的な

「ひつじと星」は書けられてるヨーロード・キーフルーズが語りて、「誰は、山から落ちるクロセスについて、医薬学アル先生のところへもどる。」



# 福井の教育を世界に発信！！

- ・発信するからこそ、そこには情報は集まる。
- ・情報が集まり、批判も頂くからこそ、より良くなっていく。
- ・福井の教育実践を、もっと日本全体に、そして世界に発信・提案したい。

## 福井の発言が日本の、世界の言語となる

- ・輸入ではなく輸出を！
- ・教員研修の充実による、授業力向上を！
- ・政策開発組織・理論研究組織、そして実践現場の協働が鍵！

41